

気候変動が もたらす影響

気候変動の影響が及ぶ
主な分野と、その将来
予測を知ることが、適
応していくための第一
歩です。



自然生態系

気候に合わせた生態系へ変化
する中で、絶滅してしまう生
物が出てきます。



農林水産業

農産物の生育や品質、漁獲量
に変化を与え、食文化や家計
にも影響が出ます。



水資源

降雨の変化による水不足や、
海面上昇を起因とする地下水
の塩水化が発生します。



自然災害

台風・豪雨の頻発や、短時間
での極端な降雨による浸水被
害が想定されます。



健康

気温上昇によって、熱中症で
の死亡リスクや、感染症・食
中毒のリスクが高まります。



経済活動

製品の材料調達に影響が出た
り、成り立たなくなる産業が
出てきたりします。



国民生活

建物のつくりが気候と合わな
くなくなり、季節の行事や衣
服に変化が起きたりします。



変わりゆく 自然環境、



県気候変動適応センター
県環境科学センター
田澤 主任技師

今までの経験・常識が通用しなくなる

県気候変動適応センターでは、気候変動が県民生活
や社会に与える影響について幅広く調査・研究、啓
発活動を行っています。
例えば農業の分野では、県内でもすでに、気温上昇
による品質の低下、遅霜による被害、今まで見られ
なかった病害虫の発生などが起き始めており、今後
影響が大きくなっていくと考えられます。
農業に限らず、今までどおりの感覚でいると立ち行
かなくなることが多くなっていくため、早めに行動
を変えていくことが必要です。

各家庭、個人ごとの「適応」を

気候変動は地球規模の問題ですが、気候変動の影響
は地域の自然、産業、社会等の状況に応じて異なる
ため、「適応」の方法もそれぞれが自分事として考え
取り組まなければなりません。
まずは身の回りの変化について知ろうとすること、
情報収集が大切になってきます。
また、気候変動というとマイナスなイメージがつき
まっていますが、変化を積極的に有効利用し、良い影
響を生かしていく視点も大切です。



県気候変動適応センター
県環境科学センター
新井 主査

今、考える 適応の必要性

迫りくる気候変動に対
し、私たちはどう変わる
べきなのでしょう。県
気候変動適応センター
でお話を伺いました。



私たちの活動も
チェックしてください！



私たちがすべき 緩和 × 適応

☎ 環境上下水道課
☎ 84-0314

気候変動の原因の一つとされる地球温暖化。
遠い未来のことではなく、差し迫った課題と
して向き合うことが求められています。

各国・各地域で脱炭素へ向
けた動きが加速化しており、
町でも、2050年までに温
室効果ガスの排出実質ゼロ実
現をめざして取組を進めてい
る最中です。
気候変動に立ち向かうに
は、原因となる炭素の排出を
抑え込む「緩和」が最も必要
かつ重要な対策です。しかし、
緩和の効果が表れるには長い
時間がかかるうえ、最大限に
努力しても、ある程度の気候
変動は避けられません。
既に観測記録を更新するよ
うな異常気象が私たちの生活
に大きな影響を及ぼしており、
将来こうした状況が深刻化す
ることが懸念されています。
そこで重要なのが、自然生
態系や社会・経済システムを
調整することにより、変化す
る気候のもとでの悪影響を最
小限に抑える「適応」という
考え方です。

緩和
原因物質である温室
効果ガス排出量を削減

- エコカーの普及
- 省エネ
- 植林

適応
自然生態系や社会・
経済システムを調整

- 災害への備え
- 感染症対策
- 熱中症予防

気候変動に対して私たち
必要とされるのは、根本的な
解決をめざしながら、身を守
るために生活を変えていくと
いう「柔軟さ」です。
緩和と適応の両輪で、未来
へ向かって進んでいくこと
が、今、求められています。